

平成21年 4月30日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520088

研究課題名(和文) 金刀比羅宮伝来美術の調査と京都画人の研究

研究課題名(英文) A Study on Art works and Artists in Kotohira-gu shrine

研究代表者

伊藤 大輔 (Daisuke Ito)

名古屋大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：00282541

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：美術史

1. 研究計画の概要

本研究は平成14年度～平成16年度まで金刀比羅宮社務所の協力によって行った金刀比羅宮美術品の悉皆調査を踏まえ、その作業を継承しつつ、さらなる調査を進めて金刀比羅宮美術、とりわけ京都画人による絵画作品を柱に、その全貌を把握することを目的としている。

さらに、作品調査と並行して文献史料の調査を行い、江戸時代以来西洋の美術制度にさらされること無く保存されてきた金刀比羅宮美術の実態を総合的に把握する。

2. 研究の進捗状況

各年度において金刀比羅宮所蔵美術品の補遺的調査を精力的に進めている。これまでに、金刀比羅宮の美術品台帳に記載されていない作品も含め10点弱の作品を発掘、調査することが出来た。

特に、狩野尚信が二十九歳の時に描いた「唐人物図屏風」は、これが真筆であるとすれば、夭折した尚信の最初期作品として位置づけられるものであり、江戸狩野研究に与えるインパクトも大きいものと思われる。

奈良絵本「しゃかの本地」も極彩色の丹精された作品であり、奈良絵本研究において今後注目される質を持っているものと思われる。

またいわゆる美術品的な作品のみならず、史料性格の作品についても調査を広げることが出来たのは、金刀比羅宮美術の性格を考察する上では資するところが大きい。

特に金刀比羅宮に奉納された絵馬や扁額を幕末に記録した「扁額縮図」を実地に調査することが出来たのは、金刀比羅宮美術の庶

民信仰的な側面を具体的に考察する上で大きく役立つと思われる。この作品はこれまで一部のみしか公開されていなかったため、今後全体を公開してゆきたいと考えている。

上述のような調査を進める一方で、これと並行して展覧会活動にも関わってきた。特に、平成19年7月から平成20年6月まで東京藝術大学美術館、金刀比羅宮、三重県立美術館の三館を巡回した「金刀比羅宮書院の美」展においては一定の研究成果を図録作成を通じて示すことが出来た。また、平成20年10月15日から12月8日までパリのギメ東洋美術館で開催された「こんびらさん 海の聖域」展に関わって、これまでの研究成果を海外に示すことが出来た意義は大きいと考えている。

同様に、これまでの研究成果を踏まえて名古屋大学と陝西師範大学共催の国際シンポジウムにおいて金刀比羅宮表書院の円山応挙筆障壁画群の東アジアの特異性について西洋と対比しながら論証できたことも金刀比羅宮研究として、解釈の進展を示せたと考えている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

金刀比羅宮美術品の再調査を進め、新規に複数の埋もれていた作品を発見するとともに、その成果を公表できているため。

4. 今後の研究の推進方策

上述のとおり、おおむね順調に進展しているので、おおきな方針変更は考えていない。

従来どおり、金刀比羅宮の各所を実地に訪問し、未調査作品の発掘に努めるとともに、今後は、文献史料や版本作品などにも視野を広げ、金刀比羅宮における美術品・美術関連史料の全貌の把握に朴訥に努めてゆくつもりである。

その基礎調査の上において、西洋の美術制度とは異なる日本的な「もの」との関わり方を、作品解釈やコレクション史的視点を通じて解明することに努める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 伊藤大輔「金刀比羅宮の信仰と絵画」(『国華』1334号、2006年、19～26頁、査読有)。
2. 伊藤大輔「狩野探幽筆『山水図』」(『国華』1334号、2006年、27～29頁、査読有)。

[学会発表] (計 1 件)

1. 伊藤大輔「十八世紀日本の障壁画空間—

讃岐金刀比羅宮表書院の円山応挙障壁画を中心に」(名古屋大学文学研究科・陝西師範大学共催国際シンポジウム『人文学研究方法の現状と展望—現地調査(Field Work)を中心に—』、於名古屋大学大学院文学研究科、2008年11月22日)

[図書] (計 2 件)

1. 田窪恭治監修・伊藤大輔主要作品解説「こんびらさん 海の聖域」展図録(金刀比羅宮、2008年、総頁数394頁、担当分273-281頁370-372頁)。
2. 田窪恭治監修・伊藤大輔主要作品解説「金刀比羅宮書院の美」展図録(朝日新聞社、2007年、総頁数263頁、担当分217-227頁)。